

令和7年度 相山女学園大学日本語教員課程自己点検・評価

自己点検・評価実施日：令和7年12月16日

評価基準：4（達成されている）、3（概ね達成されているが、不十分なところがあり、改善に取り組んでいる）、2（達成に向けて努力している）、1（達成されていない／これから取り組む）

評価事項	評価観点	評価	説明
(1) 実践研修及び養成課程の内容 (1)-1 実践研修	教育課程の適切性	—	
	実習機関の選定の適切性	—	
	実習指導体制の整備状況	—	
(1) 実践研修及び養成課程の内容 (1)-2 養成課程	教育課程の体系性と一貫性	4	日本語教員課程における養成課程は、一貫性を持って教育課程の中に体系的に位置付けられており、日本語教員として必要な知識・技能・態度を段階的に養成できる構成となっている。特に、講義系科目と実践系科目の相互関与によって、理論と実践の往還が効果的に図られていると評価できる。
	日本語教育に関する専門科目の充実度	3	本課程における養成課程の専門科目は、いわゆる「必須の教育内容」50項目を網羅して満たしている。また、授業担当教員に対する各年度のシラバス執筆依頼時においても、日本語教員課程委員会の発出する文書によって、求められる各項目を満たすよう統一的に依頼を行っていることから、一定の水準を満たしていると評価できる。ただし、各教員の自己研鑽や研修等によって今後も充実度を深化させていくよう努力を続けていきたい。
	受講者の支援体制	3	全学的な学修成果可視化システム「Sugi-PORT」を用いて日本語教員課程履修者が学修の振り返りを記録し、学修成果を可視化できるようにしている。養成課程の本務等教授者が養成課程履修者の振り返り及び成績状況を参照できることから、要支援学生を早期に発見し、支援につなげることができると思われる。しかしながら、本学においては2024年度から「Sugi-PORT」の運用が開始されたので、有効に活用できているかどうかの測定は今後継続的に観察を続ける必要がある。
(2) 教員体制	課程の組織的運営状況	4	日本語教員課程科目を担当する外国語学部及び教育学部の教員から委員会委員が選出され、日本語教員課程委員会を形成している。これにより、日本語教員課程委員会で審議された事項は委員によって各学部教授会に報告され、各学部の教務委員会と連携しながら日本語教員課程の教育課程編成等具体的な事項を実行している。
	教員の専門性と配置状況	2	日本語教員課程を有する外国語学部及び教育学部においてそれぞれ専門性の高い教員を擁しているが、実践系科目を担当する教員に専任教員がおらず、課程の一層の発展のためには専任教員の配置が求められる。

令和7年度 相山女学園大学日本語教員課程自己点検・評価

自己点検・評価実施日：令和7年12月16日

評価基準：4（達成されている）、3（概ね達成されているが、不十分なところがあり、改善に取り組んでいる）、2（達成に向けて努力している）、1（達成されていない／これから取り組む）

評価事項	評価観点	評価	説明
(3) 施設及び設備	教育に必要な図書・ICT・教室環境の充実度	3	大学図書館及び教育学部共同研究室において専門図書の蔵書を抱え、特に後者においては、課程予算によって随時図書購入を行っている。LMSの利用が大学内で推奨されていることから、ICTの利活用もを行っている。ただし、教室環境として各教室におけるプロジェクターの設置は進められているものの、ホワイトボードとの併用可能な環境整備や、可動式机・椅子のある教室の整備が求められる。
(4) 教壇実習機関との連携	協定・覚書等の整備状況	—	
	実習内容の事前調整・合意形成	—	
	指導担当者の明確化と役割分担	—	
(5) 受講者の評価	評価方法と評価基準	4	本学の日本語教員課程の授業においては、大学内外に公開されているシラバスにおいて評価方法が公開され、妥当性を検証することができる。各授業のシラバスにおいては、成績評価の基準、試験や評価の方法・成績基準（各区分のウエイトなど）・評価観点をできるだけ具体的に記入することが求められており、評価基準は明示的であると言える。また、すべての授業において複数の観点による多面的な評価が行われている。
	学修成果の可視化	3	全学的な学修成果可視化システム「Sugi-PORT」を用いて、日本語教員課程履修者が学修の振り返りを記録し、学修成果を可視化できるような体制を整備している。今後、履修者の自己評価を最終終了審査においても活用する予定である。
(6) その他必要な事項	—	—	該当なし。

※実践研修は、本学の学生が当該学年に達しておらず外部からの履修希望者もいなかったため、未実施である。